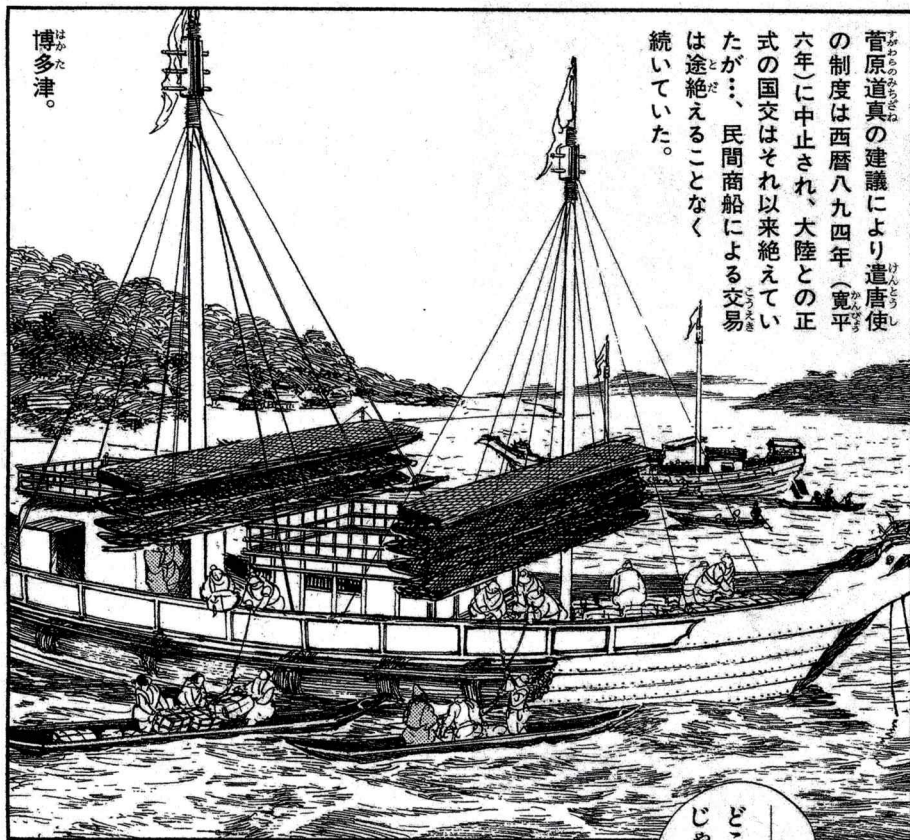
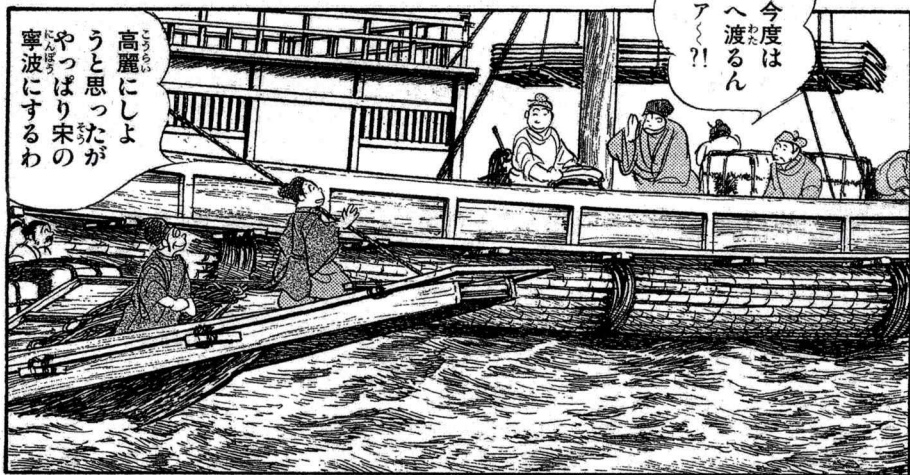


● Culture



博多津。

菅原道真の建議により遣唐使の制度は西暦八九四年(寛平六年)に中止され、大陸との正式の国交はそれ以来絶えていたが、民間商船による交易は途絶えることなく続いていた。



— 今度はどこへ渡るんじやア〜?!

高麗にしようと思つたがやっぱり宋の寧波にするわ

石森章太郎「新装版マンガ日本の歴史」平氏政権と後白河院政」中公文庫©石森プロ 平氏が力を伸ばした時代に、博多が交易船でにぎわった様子を描く

## 舶来品、政治に利用

大陸からの舶来品は「唐物」として都にもたらされ、皇族や藤原道長ら上級貴族を魅了した。博多港が整備される以前の貿易施設は「鴻臚館」(国史跡=福岡市)だった。7世紀頃、唐や新羅の使節の迎賓館として造られた。1047年(永承2年)に放火で焼

失し、入れ替わるように博多港が整備された。鴻臚館を経由した唐物の中でも貴重だったのが、沈香や麝香といった香料だ。香料に蜂蜜や梅肉などを丸葉状に練り合わせた「薫物」は貴族のステータスで、源氏物語にも光源氏が薫物を調合する様子が描かれる。

産業能率大の皆川雅樹教授(歴史学)は、道長がオリジナルの薫物を調合する能力に優れていたと指摘。「高い教養の証しで、天皇に贈るなどして、ほかの貴族がまねできない方法で、確固たる地位を手に入れる手段の一つとした。鴻臚館から届いた唐物は、政治の場でも極めて重要なアイテムだった」と話す。

\* 歴史研究が深まるにつれて日本史のトピックは見直されています。「日本史アップデート」では、研究成果を反した最新説を、広く知られた従來說と比較しながら紹介します。「世界史アップデート」と隔週で掲載の予定です